

独立行政法人国立美術館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

①評価を通じて得られた法人の今後の課題

- (イ)「国民に親しまれる美術館を目指した取組」は、様々な数値に成果があらわれ、来館者サービス・教育普及・調査研究・効率化経営の実績が向上したものであるとして評価できる。平成18年度からは第二期中期目標計画期間がはじまったので、引き続き努力を継続する方法や、危機管理及び目的積立金等の問題点を課題として、法人全体で取り組んでほしい。(項目別評価p3参照)
- (ロ)各館の理念について、館長のリーダーシップをより強く打ち出す必要がある。
- (ハ)法人内における研究職についての連携強化及び活発な人事交流を図る必要がある。(項目別評価p7参照)
- (ニ)諸外国の美術館の出版活動並びにサービス活動等を研究することにより、絶えず美術館の現状を把握し、ナショナルセンターである国立美術館のさらなる質の向上を図る必要がある。(項目別評価p7参照)

②法人経営に関する意見

- (イ)独立行政法人制度が発足して5年が経過したが、制度自体が様々な法人に一律に適用されるものであり、個別的問題の改善は困難なため、国立美術館として自らが解決策の検討をはじめめる必要がある。国立美術館としてのビジョン・目的の形成が必要であり、経営効率に加えて未来の日本の文化・芸術を育成するためのマネジメントを期待する。
- (ロ)国立美術館にとって、電子化(デジタル化等)は、法人全体で前向きに検討していくことが必要である。(項目別評価p8参照)
- (ハ)運営費交付金が毎年減少していく中で、目的積立金制度については、今後も法人が経営インセンティブを失うことがないように、他法人・主務省とも連携して対応していくことが必要である。

③特記事項(中期目標期間終了時の見直し作業、総務省からの指摘についての対応等)

- (イ)美術館にとって調査研究は、展示の質の高さの維持に不可欠であるため、長期的視野に立った独立行政法人国立美術館としての継続的な調査研究の蓄積が必要である。
- (ロ)より高い質と安いコストでの公共サービスの提供を求め、公共サービスの民間委譲の必要性が指摘される中、国立美術館としてどのように対応するのか、改善すべき点は改善しつつ議論を深める必要がある。

独立行政法人国立美術館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【東京国立近代美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化※						
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度		
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置									
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A	B		
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	A	B		
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置									
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A	A		
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A	A		
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A	B		
(中項目名)展覧会の状況			A	A	A	A	A		
(中項目名)常設展(本館)	(中項目名)常設展(本館)	(中項目名)常設展(本館・工芸館含む)	B	A	A	A	A		
(中項目名)常設展(工芸館)	(中項目名)常設展(工芸館)		B	A	A				
(小項目名)入場者数(本館)			B	A	A	A	A		
(小項目名)入場者数(工芸館)			C	B	A	A	A		
(中項目名)特別展等(本館) ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等(本館) ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 (本館・工芸館含む) ※全体で評価	A A -	A A A	A A B A A A	A	A		
(中項目名)特別展等(工芸館) ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等(工芸館) ※展覧会ごとの評価		B A A A	A A A	A B A A A				
(小項目名)特別展等入場者数(本館) ※展覧会ごとの評価	(小項目名)特別展等入場者数(本館) ※展覧会ごとの評価	(小項目名)特別展等入場者数 (本館・工芸館含む) ※展覧会ごとの評価	A A A	A A A	B A C A A A A	B A A A B	A A A A A		
(小項目名)特別展等入場者数 (工芸館) ※展覧会ごとの評価	(小項目名)特別展等入場者数 (工芸館) ※展覧会ごとの評価		B A A A	A A A	A B A A A	A A A	A A A A		
(中項目名)貸与の状況			A	A	A	A	A		
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A	A		
(小項目名)客員研究員招聘人数		(小項目名)客員研究員招聘人数(本館) (小項目名)客員研究員招聘人数(工芸館)	-					A A	

(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A				
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A				
(小項目名)出版件数①「現代の眼」			A	A	A	A	A
(小項目名)出版件数②展覧会案内			B	B	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセスの件数			A	A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A				
(小項目名)講演会の回数	(小項目名)講演会等回数	(小項目名)講演会(本館)回数	A	A	A	B	A
(小項目名)講演会等の参加者数	(小項目名)講演会等人数		A	A	A		
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果	(小項目名)講演会等に対するアンケート結果		A	A	B		
(小項目名)児童生徒を対象とした事業の開催件数	(小項目)児童生徒に対するギャラリートーク		A	A			
(小項目名)児童生徒を対象とした事業の参加者数			A				
(小項目名)ギャラリートークの回数	(小項目名)ギャラリートークの回数	(小項目名)ギャラリートークの回数(本館)	B	A	A	A	A
		(小項目名)ギャラリートークの回数(工芸館)			A	A	A
(小項目名)ギャラリートークの参加者数	(小項目名)ギャラリートークの参加者数	(小項目名)ギャラリートークの人数(本館)	A	A	A		
		(小項目名)ギャラリートークの人数(工芸館)			A		
	(小項目名)ギャラリートークアンケート	(小項目名)ギャラリートークアンケート(本館)		A	B		
		(小項目名)ギャラリートークアンケート(工芸館)			A		
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	B	A	A	A	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			B				
(中項目名)渉外活動の状況			B	B	A	B	B
(中項目名)新たな美術館施設の円滑な運営について			A				
(中項目名)その他の入館者サービス	(中項目名)その他の入館者サービス	(中項目名)その他の入館者サービス	A	A	A	A	A

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【東京国立近代美術館フィルムセンター】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化※					
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A	B	
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	A	B	
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)保管の状況			A	A	B	A	A	
(中項目名)修理の状況			A	A	B	A	A	
(中項目名)展覧会の状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)展覧会及び企画上映 ※展覧会及び企画上映ごとの評価	(中項目名)展覧会及び企画上映 ※展覧会及び企画上映ごとの評価	(中項目名)展覧会及び企画上映 ※全体で評価	A A A A A A A	A A A A A A A	A A A A A A A	A	A	
(小項目名)展覧会等入場者数 ※展覧会及び企画上映ごとの評価			A A A A A A	A B B C C C A A	A B A A B B A B A A A	A A A B B A A A	A A A A B B A A A B B A A	
(中項目名)優秀映画鑑賞推進事業			A	A	A	A	A	
(小項目名)実施会場数			A	A	A	A	A	
(小項目名)入場者数			A	A	A	A	A	
(中項目名)貸与の状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A	A	

(小項目名)客員研究員招聘人数			A	A	A	A	A
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A				
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A				
(小項目名)「ニュースレター」発行回数	(小項目名)ニュースレター	(小項目名)ニュースレター	A	A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A				
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			B				
(小項目名)講演会の回数			A	A	A	A	A
(小項目名)講演会等の参加者数			B	C	A		
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果			B				
(小項目名)児童生徒を対象とした事業の開催件数	(小項目名)相模原分館における上映会	(小項目名)相模原分館における上映会	A	C	C	C	B
(小項目名)児童生徒を対象とした事業の参加者数			(小項目名)こども映画館	B		B	A
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	B	A	A	A	A
(小項目名)映画製作専門養成講座の回数			A				
(小項目名)映画製作専門養成講座の参加者数			A				
(中項目名)ボランティアの活用状況			B				
(中項目名)渉外活動の状況			—	A	A	B	B
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	A	A

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【京都国立近代美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化※					
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A	A	
(小項目名)効率化の達成率			B	A	B	A	A	
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A	B	
(中項目名)展覧会の状況			A	B	A	A	A	
(中項目名)常設展			A	B	B	A	A	
(小項目名)常設展入場者数			A	C	B	A	A	
(中項目名)特別展等 ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 ※全体で評価	A A A B B B B A	A A A B A B	B B A A A B A A	A	B	
(小項目名)特別展等入場者数 ※展覧会ごとの評価			A B A C B C C B	A A B B A B	C B A A A C A A	B C A A C A A B A A	A B B A A C B A B	
(中項目名)国立博物館・美術館巡回展	(中項目名)地方巡回展等		A	A	A	B		
(小項目名)入館者数	(小項目名)入館者数		B	B	A	C		
(中項目名)貸与の状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	B	A	A	A	A	
(中項目名)広報活動の状況			A					
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A					

(小項目名)出版件数 ①美術館ニュース「見る」			A	A	A	A	A
(小項目名)出版件数 ②収蔵品目録			A	A	A	A	A
(小項目名)出版件数 ③展覧会カレンダー			A	A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセス の件数			A	A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講習会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした 講座等の実施状況			B				
(小項目名)子どものためのワーク ショップの開催件数	(小項目名)子どものためのワーク ショップの開催件数	(小項目名)子どものためのワーク ショップの開催件数	A	A	A	A	A
(小項目名)子どものためのワーク ショップの参加者数	(小項目名)子どものためのワーク ショップの参加者数		A	A	A		
(小項目名)講演会等の開催件数	(小項目名)企画展における講演会 回数	(小項目名)企画展における講演会 回数	A	A	A	A	A
(小項目名)講演会等の参加者数	(小項目名)企画展における講演会 人数		A	A	A		
(小項目名)講演会等に対する アンケート結果	(小項目名)企画展における講演会 アンケート		A	B	B		
(小項目名)シンポジウム	(小項目名)大学との協力による シンポジウム 回数	(小項目名)大学との協力による シンポジウム 回数	A	A	A	A	A
(小項目名)シンポジウムの参加者数	(小項目名)大学との協力による シンポジウム 人数		A	A	A		
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況		B	A	A	B	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			B				
(中項目名)渉外活動の状況			B	A	A	B	B
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	B	A

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【国立西洋美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化※						
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度		
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置									
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A	A	B	
(小項目名)効率化の達成率			B	B	A	B	C		
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置									
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A	A		
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A	A		
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A	A		
(中項目名)展覧会の状況			A	A	A	A	A		
(中項目名)常設展			A	A	A	A	A		
(小項目名)常設展入場者数			A	A	A	A	A		
(中項目名)特別展等 ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 ※全体で評価	A A — A	A A A	B A A	A	A		
(小項目名)特別展入場者数 ※展覧会ごとの評価			A A A	A A A	B A A	B A A A	A A A A		
(中項目名)貸与の状況			B	B	B	B	B		
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A	A		
(小項目名)客員研究員招聘人数			A	A	A	A	A		
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A	A		
(中項目名)広報活動の状況			A						
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A						
(小項目名)「国立西洋美術館ニュース」出版件数	(小項目名)「国立西洋美術館ニュース」出版件数	(小項目名)「国立西洋美術館ニュース」出版件数	B	A	A	A	A		
(小項目名)展示予定表出版件数	(小項目名)展示予定		B	A					
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A	A	A	A	A		
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講習会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A	A		
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A						
(小項目名)企画展における講演会回数	(小項目名)企画展における講演会回数	(小項目名)企画展における講演会回数	A	A	A	A	A		

(小項目名)スライドトーク等の実施回数	(小項目名)スライドトーク等の実施回数	(小項目名)スライドトーク等の実施回数	A	A	A	B	A
(小項目名)企画展における講演会人数	(小項目名)企画展における講演会人数		A	A	A		
(小項目名)スライドトーク等の参加者数	(小項目名)スライドトーク等の参加者数		A	B	A		
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果	(小項目名)企画展における講演会アンケート		A	A	A		
	(小項目名)スライドトーク等の実施アンケート			A	A		
		(小項目名)音楽プログラム			A	A	A
		(小項目名)シンポジウム	(小項目名)ジョルジュ・ラトゥールに関する音楽プログラム			A	A
(小項目名)こどものための美術(創作体験プログラム)件数	(小項目名)こどものための美術(創作体験プログラム)件数	(小項目名)創作体験プログラム 回数	A	A	A	A	A
(小項目名)こどものための美術(創作体験プログラム)参加者数	(小項目名)こどものための美術(創作体験プログラム)参加者数		A	A	A		
(小項目名)先生(小・中学校教員)のためのプログラムの開催件数	(小項目名)先生(小・中学校教員)のためのプログラムの開催件数	(小項目名)ギャラリートーク回数	A	A	A	A	B
(小項目名)先生(小・中学校教員)のためのプログラムの開催件数参加者数	(小項目名)先生(小・中学校教員)のためのプログラムの開催件数参加者数		A	A	A		
		(小項目名)びじゅつーる					A
		(小項目名)どようびじゅつ					B
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	B	A	A	A	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			B				
(中項目名)渉外活動の状況			B	A	A	B	B
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	A	A

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【国立国際美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化※					
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A	B	
(小項目名)効率化の達成率			B	A	A	A	C	
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)保管の状況			A	A	B	A	A	
(中項目名)修理の状況			B	B	A	A	B	
(中項目名)展覧会の状況			B	A	A	A	A	
(中項目名)常設展			A	A	A	A	A	
(小項目名)常設展入場者数			A	A	A	A	A	
(中項目名)特別展等 ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 ※展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 ※全体で評価	A A B A A A A A A B	A A A B A A	A B A A	A	A	
(小項目名)特別展等入場者数 ※展覧会ごとの評価			A B B A A A A A	A A A C A A	A B A A	A A A	A A A A A A	
(中項目名)国立博物館・美術館巡回展		(中項目名)国立博物館・美術館巡回展	B			A		
(小項目名)入場者数		(小項目名)入場者数	C			-		
(中項目名)国際交流展			-	A				
(小項目名)国際交流展入場者数			-					
(中項目名)貸与の状況			A	A	A	A	A	
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A	A	
		(小項目名)客員研究員招聘人数					A	
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	B	A	A	A	A	
(中項目名)広報活動の状況			A					

(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A				
(小項目名)ジュニアガイドブック			A	A	A	A	A
(小項目名)月報			A	A	A	B	A
(小項目名)「展覧会案内」出版件数			A	A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセス			A	A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	B	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A				
(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	A	A	A	A	A
(小項目名)子どものためのワークショップの参加者件数	(小項目名)子どものためのワークショップの参加者件数		C	C	B		
(小項目名)子どものためのビデオ上映の開催件数	(小項目名)子どものためのビデオ上映の開催件数	(小項目名)ビデオ上映(子ども)	A	A	C	C	
(小項目名)子どものためのビデオ上映の参加者件数	(小項目名)子どものためのビデオ上映の参加者件数		A	A	A		
(小項目名)講演会 回数	(小項目名)講演会 回数	(小項目名)講演会 回数	A	A	A	A	A
(小項目名)講演会 人数	(小項目名)講演会 人数		C	C	C		
(小項目名)ギャラリー・トーク	(小項目名)ギャラリー・トーク	(小項目名)ギャラリー・トーク	A	B	A	A	A
(小項目名)ギャラリー・トークの参加者数	(小項目名)ギャラリー・トークの参加者数		A	B	A		
(小項目名)パフォーマンス			A				
(小項目名)パフォーマンスの参加者数			A				
(小項目名)ビデオ上映	(小項目名)ビデオ上映	(小項目名)ビデオ上映	A	A	A	A	
(小項目名)ビデオ上映の参加者数	(小項目名)ビデオ上映の参加者数		C	A	C		
	(小項目名)フィルム上映会 回数			A	C		
	(小項目名)フィルム上映会 人数			C	C		
	(小項目名)講演会 アンケート		A	A	B		
(小項目名)講演会 アンケート	(小項目名)ギャラリー・トーク アンケート			A	A		
	(小項目名)ビデオ上映 アンケート			A	B		
	(小項目名)フィルム上映会 アンケート			B	C		
		(小項目名)びじゅつあー					A
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	B	B	A	B	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			B				
(中項目名)渉外活動の状況			-	B	B	B	B
(中項目名)開館への準備状況			B	A	A	A	
(中項目名)その他の入館者サービス			B	B	A	A	A

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【国立新美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化※				
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置							
(中項目名)新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の開設に向けた準備について			—	—	—	B	A

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
収入						支出					
運営費交付金	4,426	4,275	4,622	5,158	4,984	人件費	1,070	1,065	1,103	1,187	1,197
施設整備費補助金	0	0	0	0	0	業務経費	2,564	2,579	2,905	3,183	3,564
受託収入	0	0	4	6	38	展覧事業費	2,167	1,941	2,235	2,577	2,952
諸収入	1,554	519	555	543	739	調査研究事業費	170	316	284	208	208
						教育普及事業費	227	322	386	398	404
						受託経費	0	0	4	6	36
						一般管理費	954	941	994	1,200	979
						国立新美術館設立等準備事業費	0	6	54	93	235
計	5,980	4,794	5,181	5,707	5,761	計	4,588	4,591	5,060	5,669	6,011

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
費用						収益					
経常費用	3,476	3,501	3,652	3,960	4,105	運営費交付金収益	3,118	3,068	3,347	3,537	3,605
収集保管業務費	235	238	310	345	359	資産見返運営費交付金戻入	3	14	24	51	86
展覧業務費	1,139	1,098	1,054	1,129	1,131	資産見返物品受贈額戻入	118	118	68	50	38
調査研究業務費	276	340	249	236	313	入場料収入	334	426	297	461	646
教育普及業務費	339	424	450	496	525	その他事業収入	30	30	58	65	86
新館設置等対応費	131	0	117	60	128	寄附金収益	9	10	6	15	5
受託事業費	0	0	4	6	36	受託収入	0	0	4	6	38
一般管理費	1,235	1,268	1,380	1,590	1,488	財務収益	0	0	0	0	0
減価償却費	121	133	88	98	125	雑益	0	0	0	1	0
財務費用	0	0	0	0	0	臨時利益	1,894	85	0	0	0
臨時損失	714	33	43	10	0						
計	4,190	3,534	3,695	3,970	4,105	計	5,506	3,751	3,804	4,186	4,504
						純利益	1,316	217	109	216	400
						目的積立金取崩額	0	0	0	0	43
						総利益	1,316	217	109	216	443

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	3,803	4,532	4,544	5,300	5,173	業務活動による収入	4,793	5,978	5,180	5,692	5,760
投資活動による支出	58	86	242	332	237	運営費交付金による収入	4,426	4,275	4,622	5,158	4,984
財務活動による支出	0	0	0	0	0	受託収入	0	0	4	6	33
翌年度への繰越金	932	2,292	2,686	2,746	3,096	その他の収入	367	1,703	554	528	743
						投資活動による収入	0	0	0	0	0
						施設費による収入	0	0	0	0	0
						その他の収入	0	0	0	0	0
						財務活動による収入	0	0	0	0	0
						前年度よりの繰越金	0	932	2,292	2,686	2,746
計	4,793	6,910	7,472	8,378	8,506	計	4,793	6,910	7,472	8,378	8,506

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資産						負債					
流動資産	2,122	2,298	2,693	2,770	3,124	流動負債	805	769	1,056	1,025	1,619
固定資産	71,553	71,700	72,504	85,449	86,292	固定負債	533	542	635	890	924
						負債合計	1,338	1,311	1,691	1,915	2,543
						資本					
						資本金	33,649	33,649	33,649	45,949	45,949
						資本剰余金	37,371	37,504	38,213	38,608	39,044
						利益剰余金	1,317	1,534	1,644	1,747	1,880
						(うち当期未処分利益)	1,317	217	110	216	443
						資本合計	72,337	72,687	73,506	86,304	86,873
資産合計	73,675	73,998	75,197	88,219	89,416	負債資本合計	73,675	73,998	75,197	88,219	89,416

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
I 当期未処分利益					
当期総利益	1,316	217	109	216	443
前期繰越欠損金					
II 利益処分額					
積立金	0	1,213	1,276	1,315	1,437
独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けた額					
美術作品購入・修理積立金	0	63	155	110	0
調査研究等積立金	0	0	0	0	0
企画展等積立金	0	0	0	0	0
設備積立金	0	41	103	105	0

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:人)

職種※	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
定年制研究職員	52	53	58	60	60
任期制研究系職員	57	57	58	63	65
定年制事務職員	6	6	6	5	5
任期制事務職員					
...					

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

独立行政法人国立美術館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

◎項目別評価

中期計画の各項目ごとに段階的評価を行う。

○段階的評価

- 「A」：中期目標を十分に達成し、着実に成果を上げた。
- 「B」：中期目標をほぼ達成し、概ね成果を上げた。
- 「C」：中期目標は十分に達成されず、業務の改善が必要。
- 「-」：評価しない。

○定性的評価

評価を出すに至って背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性を記述する。

評価結果の館の略称

東京国立近代美術館：本館・工芸館の両方含む
 東近美フィルムセンター：東京国立近代美術館フィルムセンター

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準					評 定	
							段階的評価	定 性 的 評 定
							各館別	法 人 全 体
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	効率化の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。(A～C)					<p>業務の一元化・効率化は着実に進展し、相応の成果が出ており、意識改革を含めて努力が見受けられ、評価できる。数値的には目標を下回っているが、これは入館者数の増大に伴う費用の増大もあり、一概に評価できるものではない。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>入札などでの外部委託はより推進すべきである。また、講堂・小ホールなどの施設の有効利用については(各館で差があるが)、より一層の努力が必要である。</p>	
	東京国立近代美術館							B
	東近美フィルムセンター							B
	京都国立近代美術館							A
	国立西洋美術館							B
	国立国際美術館							B
	効率化の達成率	A	B	C	実績			
	東京国立近代美術館	1. 5%以上	1. 0%以上 1. 5%未満	1. 0%未満	1. 289%	B		
	東近美フィルムセンター	1. 5%以上	1. 0%以上 1. 5%未満	1. 0%未満	1. 289%	B		
	京都国立近代美術館	1. 5%以上	1. 0%以上 1. 5%未満	1. 0%未満	3. 134%	A		
国立西洋美術館	1. 5%以上	1. 0%以上 1. 5%未満	1. 0%未満	△1. 639%	C			
国立国際美術館	1. 5%以上	1. 0%以上 1. 5%未満	1. 0%未満	△0. 771%	C			

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準	評 定		
			段階的評定	定 性 的 評 定	
			各館別	法 人 全 体	
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(東京国立近代美術館) 近・現代の絵画・水彩・素描、版画、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。 美術・工芸に関してはコレクションにより近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。 また、映画フィルム等については、残存するフィルムを可能な限り収集するとともに積極的に復元を図る。</p> <p>(京都国立近代美術館) 近代美術史における重要な作品など、近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。その際、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した収蔵品の充実にも配慮する。</p> <p>(国立西洋美術館) 中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。</p> <p>(国立国際美術館) 日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために、主に1945年以降の日本及び欧米の現代美術並びに国際的に注目される国内外の同時代の美術を系統的に収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	<p>美術作品の（購入・寄贈・寄託）の状況</p> <p>-----</p> <p>東京国立近代美術館</p> <p>-----</p> <p>東近美フィルムセンター</p> <p>-----</p> <p>京都国立近代美術館</p> <p>-----</p> <p>国立西洋美術館</p> <p>-----</p> <p>国立国際美術館</p> <p>-----</p>	<p>法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	<p>-----</p> <p>A</p> <p>-----</p> <p>A</p> <p>-----</p> <p>A</p> <p>-----</p> <p>A</p> <p>-----</p> <p>A</p>	<p>適切な美術作品の購入・寄託を果たしていると言える。ただし自己収入の増加による作品購入決算額と予算額の乖離については、今後検討すべきである。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 外部資金の受け入れ等により一層の努力を期待する。また、各館における収集方針の確認や、法人内での作品の移管等、改善を図るべき課題がある。</p>	
	<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>保管の状況</p> <p>-----</p> <p>東京国立近代美術館</p> <p>-----</p> <p>東近美フィルムセンター</p> <p>-----</p>	<p>法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	<p>-----</p> <p>A</p> <p>-----</p> <p>A</p>	<p>各設備の事情が異なる現状においては、良好な保存状況にあり、各館ともに最大限の努力をしていると言える。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 特に収蔵スペース不足の問題は検討を要する。東京国立近代美術館工芸館、フィルムセンター及び京都国立近代美術館については、早期に改</p>

	京都国立近代美術館		A	善する必要がある。また、入館者サービスや自己収入確保に尽力した反面、館によっては収蔵品の整理が不十分など見られることから、法人全体として解決方法を検討すべきである。	
	国立西洋美術館		A		
	国立国際美術館		A		
(3)-1 修理，保存処理を要する収蔵品等については，保存科学の専門家等との連携の下，修理，保存処理計画をたて，各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 ① 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち，緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 ② 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 (3)-2 国内外の美術館等の修理，保存処理の充実に寄与する。	修理の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ，各委員の協議により，評定を決定する。(A～C)		修理技術の設備等が限られた中において、よく対応している。特に、東京国立近代美術館での外部専門家との協力体制の確立、国立国際美術館の修復専門の客員研究員の採用等を評価する。 【より良い事業とするための意見等】 修理・保存の部署が法人全体として存在しないことは問題であり、検討が必要。 フィルムセンターにおける音声のデジタル復元は今後とも続けていく必要があるが、京都国立近代美術館・国立国際美術館の修理事業については、予算を見直す必要がある。	
	東京国立近代美術館		B		
	東近美フィルムセンター		A		
	京都国立近代美術館		B		
	国立西洋美術館		A		
	国立国際美術館		B		
2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ，学術的動向等を踏まえ，各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。 (1)-2 常設展においては，国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに，最新の研究結果を基に，美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 企画展等においては，積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し，学術水準の向上に寄与するとともに，国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 なお，実施にあたっては，国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに，国際文化交流の推進に配慮する。 (東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度 (京都国立近代美術館) 年6～7回程度 (国立西洋美術館) 年3回程度 (国立国際美術館) 年5～6回程度 (1)-4 展覧会を開催するにあたっては，開催目的，期待する成果，学術的意義を明確にし，専門家等からの意見を聞くとともに，入館者に対するアンケート調査を実施，そのニーズや満足度を分析し，それらを展覧会に反映させることにより，常に魅力あるものとなるよう努力する。 (1)-5 各館の連携による共同企画展，巡回展等の実施について検討し推進する。	展覧会の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ，各委員の協議により，評定を決定する。(A～C)		法人全体として、ふさわしい展示活動を行っていることを高く評価する。このことは入館者の増加にも表れている。 【より良い事業とするための意見等】 平成17年度は法人全体での入館者数及び収入額は過去最高となっているが、通常の場合の入館者数及び収入額を把握し、今後の運営の参考となるデータを集める必要がある。	
	東京国立近代美術館		A		
	東近美フィルムセンター		A		
	京都国立近代美術館		A		
	国立西洋美術館		A		
	国立国際美術館		A		
		常設展			各館ともに常設展については空間演出、キャプションの充実、スクール・ギャラリートークなど、充分工夫され、収蔵作品を有効に活用すべく努力しており、結果として4館合計の入館者数が約1.5倍となったことは高く評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 小中学生の入館者増は教育普及事業の努力の成果であり、また入館者の増加は教育・普及・調査・研究に極めて有効なものであるため、一層の充実を望む。 また、各館の個性が引き立つように親しまれるネーミングを検討してはどうか。
	東京国立近代美術館		A		
	京都国立近代美術館		A		
	国立西洋美術館		A		
	国立国際美術館		A		
	入場者数	A B C 実績			
東京国立近代美術館					
(本館)	179,000人以上	125,300人以上 179,000人未満	125,300人未満	288,564人	A
(工芸館)	33,000人以上	23,100人以上 33,000人未満	23,100人未満	66,263人	A

(1)-6 収蔵品の効果的活用，地方における鑑賞機会の充実を図る観点から，全国の公私立美術館等と連携協力して，地方巡回展を実施する。

なお，中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。

また，公立文化施設等と連携協力して，収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。

(3) 入館者数については，各館で行う展覧会ごとに，その開催目的，想定する対象層，実施内容，学術的意義，良好な観覧環境，広報活動，過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し，その達成に努める。

京都国立近代美術館	110,000人以上	77,000人以上 111,000人未満	77,000人未満	120,813人	A
国立西洋美術館	230,000人以上	161,000人以上 230,000人未満	161,000人未満	295,178人	A
国立国際美術館	181,000人以上	126,700人以上 181,000人未満	126,700人未満	686,553人	A
特別展等					
東京国立近代美術館	特別展等				A
	地方巡回展				A
東近美フィルムセンター	展覧会及び企画上映				A
	優秀映画鑑賞推進事業				A
京都国立近代美術館	特別展等				B
国立西洋美術館	特別展等				A
国立国際美術館	特別展等				A
入場者数等	A	B	C	実績	
東京国立近代美術館					
ゴッホ展	274,000人以上	191,800人以上 274,000人未満	191,800人未満	474,263人	A
小林古径展	40,000人以上	28,000人以上 40,000人未満	28,000人未満	66,865人	A
アジアのキュビズム	8,000人以上	5,600人以上 8,000人未満	5,600人未満	11,356人	A
ドイツ写真の現在	16,000人以上	11,200人以上 16,000人未満	11,200人未満	25,887人	A
アウグストザンダー展	16,000人以上	11,200人以上 16,000人未満	11,200人未満	26,200人	A
須田国太郎展	19,000人以上	13,300人以上 19,000人未満	13,300人未満	22,673人	A
藤田嗣治展	8,000人以上	5,600人以上 8,000人未満	5,600人未満	16,024人	A
伊砂利彦 型染の美	8,000人以上	5,600人以上 8,000人未満	5,600人未満	23,248人	A

特別展については，東京国立近代美術館の「ゴッホ展」が極めて多くの入館者を集め、突出した成果をあげたことを評価する。また入館者の多少にかかわらず、内容が充実した展覧会もあった。京都国立近代美術館の「加守田章二展」「エルンスト・バルラッハ展」、国立西洋美術館の「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展」、国立国際美術館の「もの派—再考展」に代表されるように、積極的な取組が特別展全体を通じて示されており、高く評価できる。

入館者が多い展覧会においては、鑑賞環境のマイナス面もあった。

東京国立近代美術館工芸館が初めて所蔵作品による地方巡回展を行ったことを評価したい。

【より良い事業とするための意見等】

多数の入館者を得たことに満足するのではなく、企画の理念・方向の確立や鑑賞環境改善のため、展覧会終了後も十分に調査・分析し、自己批判も含めて今後の展覧会企画及び運営に役立てることが必要である。

また、東京国立近代美術館の「アジアのキュビズム展」に見られるように、アジア・アフリカへの取組は、今後も不可欠なものとなる。

なお、フィルムセンターの優秀映画鑑賞推進事業については、外部委託を検討するなど、固定観念を取り除く必要がある。

日本のアール・ヌーヴォー	11,000人以上	7,700人以上 11,000人未満	7,700人未満	17,887人	A
渡辺力 リビング・デザイン の革新	11,000人以上	7,700人以上 11,000人未満	7,700人未満	18,757人	A
国立美術館巡回展 (東近美)	5,979人以上	4,185人以上 5,979人未満	4,185人未満	7,959人	A
東近美フィルムセンター					
生誕百年特集 映画 監督 稲垣浩	14,000人以上	9,800人以上 14,000人未満	9,800人未満	14,442人	A
生誕百年特集 映画 監督 豊田四郎	12,000人以上	8,400人以上 12,000人未満	8,400人未満	18,582人	A
発掘された映画たち 2005	7,500人以上	5,250人以上 7,500人未満	5,250人未満	9,726人	A
生誕百年特集 映画 監督 成瀬巳喜男	25,500人以上	17,850人以上 25,500人未満	17,850人未満	41,982人	A
生誕百年特集 映画監督 斎藤寅二郎と野村浩将	6,000人以上	4,200人以上 6,000人未満	4,200人未満	6,045人	A
韓国リアリズム映画の開 拓者 兪賢穆監督特集	3,000人以上	2,100人以上 3,000人未満	2,100人未満	2,933人	B
シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち	2,000人以上	1,400人以上 2,000人未満	1,400人未満	1,883人	B
松竹映画探索 1960- 70年代	5,000人以上	3,500人以上 5,000人未満	3,500人未満	5,053人	A
NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選	18,000人以上	12,600人以上 18,000人未満	12,600人未満	21,140人	A
ポーランド映画、昨 日と今日	2,000人以上	1,400人以上 2,000人未満	1,400人未満	3,144人	A
第6回東京フィルメックス特集上映「生誕百年特集 映画監督 中川信夫」	3,500人以上	2,450人以上 3,500人未満	2,450人未満	3,435人	B
「尾上松之助と時代 劇スターの系譜」展	7,000人以上	4,900人以上 7,000人未満	4,900人未満	5,181人	B
「ポーランドの映画 ポスター」展	1,500人以上	1,050人以上 1,500人未満	1,050人未満	2,199人	A
「松竹と映画」展	3,000人以上	2,100人以上 3,000人未満	2,100人未満	3,042人	A
優秀映画鑑賞推進事業					

実施会場数	130会場以上	91会場以上 130会場未満	91会場未満	181会場	A
入場者数	66,637人以上	46,646人以上 66,637人未満	46,646人未満	86,753人	A
京都国立近代美術館					
河井寛次郎展	1,000人以上	700人以上 1,000人未満	700人未満	3,334人	A
村上華岳展	33,000人以上	23,100人以上 33,000人未満	23,100人未満	27,457人	B
throughthesurface : 表現を通してー現代テキスタイルの日英交流	15,000人以上	10,500人以上 15,000人未満	10,500人未満	12,103人	B
加守田章二展	16,000人以上	11,200人以上 16,000人未満	11,200人未満	18,636人	A
小林古径展	27,000人以上	18,900人以上 27,000人未満	18,900人未満	41,185人	A
堂本尚郎展	15,000人以上	10,500人以上 15,000人未満	10,500人未満	8,132人	C
須田国太郎展	19,000人以上	13,300人以上 19,000人未満	13,300人未満	17,953人	B
ドイツ写真の現在ーかわりゆく「現実」と向かいあうために	11,000人以上	7,700人以上 11,000人未満	7,700人未満	16,203人	A
エルンスト・バルラハ展	19,000人以上	13,300人以上 19,000人未満	13,300人未満	18,458人	B
国立西洋美術館					
シヨルジュ・ト・ラ・トゥール展ー光と闇の世界	94,000人以上	65,800人以上 94,000人未満	65,800人未満	186,543	A
ドレスデン国立美術館展ー世界の鏡ー	211,000人以上	147,700人以上 211,000人未満	147,700人未満	286,330	A
キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画	30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	30,176	A
ロダンとカリエール	26,000人以上	18,200人以上 26,000人未満	18,200人未満	26,109	A
国立国際美術館					
オノデラユキ写真展	5,000人以上	3,500人以上 5,000人未満	3,500人未満	6,510人	A

	エミール・ガレ展	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	47,628人	A	
	シュテファン・バルケンホール	113,000人以上	79,100人以上 113,000人未満	79,100人未満	403,780人	A	
	ゴッホ展	100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	360,613人	A	
	転換期の作法	5,000人以上	3,500人以上 5,000人未満	3,500人未満	12,618人	A	
	瑛九 フォトデッサン展	6,000人以上	4,200人以上 6,000人未満	4,200人未満	15,952人	A	
	もの派ー再考	5,000人以上	3,500人以上 5,000人未満	3,500人未満	11,609人	A	
	プーシキン美術館展	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	242,912人	A	
(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A~C)					国立西洋美術館を除き、貸与件数については十分に評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 今後とも貸与の充実を期待するが、作品保全と各館の常設展示計画、研究員の負担をよく考慮すべきである。 国立西洋美術館については、何故他館より低い水準となるのかを調査する必要がある。
	東京国立近代美術館					A	
	東近美フィルムセンター					A	
	京都国立近代美術館					A	
	国立西洋美術館					B	
	国立国際美術館					A	
3 調査研究 (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 ①収蔵品に関する調査研究 ②美術作品に関する調査研究 ③収集・保管・展示に関する調査研究 ④美術史、美術動向、作者に関する調査研究 ⑤世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。 (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館	調査研究の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A~C)					調査研究は、きわめて活発であり、客員研究員システムを含め高く評価できる。特にフィルムセンターのNFCニューズレターは資料価値が高く、京都国立近代美術館の研究紀要の刊行着手も評価できる。東京国立近代美術館が閲覧制度「プリント・スタディ」を発足させたことや国立西洋美術館が版画・素描室を開室したこともよい。東京国立近代美術館工芸館及び国立西洋美術館における研究活動成果が優れていると言える。 【より良い事業とするための意見等】 法人全体の課題として、学術的成果の公表を求めたい。特に国内外の学会誌等における論文発表を要請する。また、法人内の研究成果の審査機能または審査制度の確立も求めたい。 ナショナルセンターとして国内外の研究動向に目を向け、海外発表するなど研究支援体制の充実が必要である。
	東京国立近代美術館					A	
	東近美フィルムセンター					A	
	京都国立近代美術館					A	
	国立西洋美術館					A	
	国立国際美術館					A	
	客員研究員招聘人数	A	B	C	実績		
	東京国立近代美術館 (本館)	1人以上	—	0人	1人	A	

<p>に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	(工芸館)	1人以上	—	0人	1人	A	
	東近美フィルムセンター	4人以上	2人以上 4人未満	2人未満	4人	A	
	国立西洋美術館	3人以上	2人	2人未満	3人	A	
	国立国際美術館	1人以上	—	0人	1人	A	
<p>4 教育普及</p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収藏品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収藏品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	美術館に関する情報の収集及び公開の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A~C)				<p>印刷物・ホームページ・所蔵品データベース・図書検索サービスの充実など、着実に進展している。特に4館の所蔵作品の一括検索が可能になったことや、展覧会カタログの検索システムは高く評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 PR媒体として主役の座を占めつつあるデジタル化・IT化については、今後より一層の充実を求める。</p>	
	東京国立近代美術館						A
	東近美フィルムセンター						A
	京都国立近代美術館						A
	国立西洋美術館						A
	国立国際美術館						A
	東京国立近代美術館	A	B	C	実績		
	現代の眼	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	6回		A
	展覧会案内	1回以上	—	0回	1回		A
	HPのアクセス件数	129,602件以上	90,721件以上 129,602件未満	90,721件未満	9,205,420件		A
	東近美フィルムセンター	A	B	C	実績		
	ニュースレター	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	6回		A
	京都国立近代美術館	A	B	C	実績		
	美術館ニュース	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	6回		A
	展覧会カレンダー	3回以上	2回	2回未満	3回		A
	HPのアクセス件数	88,000件以上	61,600件以上 88,000件未満	61,600件未満	302,860件		A
	国立西洋美術館	A	B	C	実績		
	国立西洋美術館ニュース	4回以上	3回以上 4回未満	3回未満	4回		A
	HPのアクセス件数	275,000件以上	192,500件以上 275,000件未満	192,500件未満	1,005,566件		A

	国立国際美術館	A	B	C	実績	
	ジュニアガイドブック	1回以上	—	0回	1回	A
	美術館ニュース	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	6回	A
	展覧会案内	1回以上	—	0回	1回	A
	HPのアクセス件数	155,993件以上	109,195件以上 155,993件未満	109,195件未満	688,220件	A
<p>(2) 新学習指導要領，完全学校週5日制の実施等を踏まえ，学校，社会教育関係団体と連携協力しながら，児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成，講座，ワークショップ等を実施することにより，美術作品等への理解の促進，学習意欲の向上等を促し，心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また，児童生徒を対象とした事業について，中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3) 美術作品に関し，その理解を深めるような講演会，講座，スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等，生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について，中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また，その参加者に対しアンケートを行い，回答数の80%以上から，その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し，さらに充実を図る。</p>	講座・講習会等の実施状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ，各委員の協議により，評定を決定する。(A～C)				
	東京国立近代美術館					A
	東近美フィルムセンター					A
	京都国立近代美術館					A
	国立西洋美術館					A
	国立国際美術館					A
	東京国立近代美術館	A	B	C	実績	
	講演会及びギャラリートーク(本館)	15回以上	11回以上 15回未満	11回未満	18回	A
	常設展ギャラリートーク(工芸館)	10回以上	7回以上 10回未満	7回未満	10回	A
	企画展ギャラリートーク(工芸館)	11回以上	8回以上 11回未満	8回未満	13回	A
	東近美フィルムセンター	A	B	C	実績	
	講演会	2回以上	1回	0回	2回	A
	上映会(相模原分館)	3回以上	2回	2回未満	2回	B
	京都国立近代美術館	A	B	C	実績	
	こどものためのワークショップ	3回以上	2回	2回未満	5回	A
企画展における講演会	12回以上	8回以上 12回未満	8回未満	13回	A	
大学との協力 シンポジウム	1回以上	—	0回	3回	A	
国立西洋美術館	A	B	C	実績		

講演会・ギャラリートークを積極的に実施し、参加者数が増加していることは評価できる。特に教員に対する講演会については、教育普及にきわめて有効であった。

【より良い事業とするための意見等】
所蔵作品との連携や他の芸術分野とのコラボレーションが展開され、高く評価できる。より一層の競演等を期待する。

また、法人全体のコンテンツを作成し、その上で各館の独自性を打ち出すなど、より一層の充実を期待する。

	企画展における講演会	12回以上	8回以上 12回未満	8回未満	14回	A	
	ライブトーク等	14回以上	10回以上 14回未満	10回未満	17回	A	
	音楽プログラム	1回以上	—	0回	1回	A	
	シヨルジュ・ト・ラトゥールに関する音楽プログラム	3回以上	2回	2回未満	3回	A	
	創作体験プログラム	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	14回	A	
	先生のための鑑賞プログラム	4回以上	3回	3回未満	3回	B	
	びじゅつーる	12回以上	8回以上 12回未満	8回未満	12回	A	
	どようびじゅつ	16回以上	11回以上 16回未満	11回未満	12回	B	
	国立国際美術館	A	B	C	実績		
	こどものためのワークショップ	4回以上	3回	3回未満	4回	A	
	こどもびじゅつあー	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	8回	A	
	講演会	11回以上	8回以上 11回未満	8回未満	15回	A	
	ギャラリートーク	5回以上	4回	4回未満	9回	A	
(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。	研修等の取組み状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)					法人全体として、各種の研修を実施したことを評価する。 【より良い事業とするための意見等】 研修の位置付けを法人全体として検討する必要がある。 また、ボランティアについても、その位置付け等に館の明確な指針が必要である。 大学との連携企画を実施することを期待する。
	東京国立近代美術館					A	
	東近美フィルムセンター					A	
	京都国立近代美術館					A	
	国立西洋美術館					A	
	国立国際美術館					A	
(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。	渉外活動の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)					地域との連携やイベントについては、積極的に行っているようであるが、更に進展させる余地がある。 【より良い事業とするための意見等】 各館ごとの対応では限界があると思われるため、法人として、より積極的に渉外活動を行う
	東京国立近代美術館					B	
	東近美フィルムセンター					B	

	<p>京都国立近代美術館</p> <p>国立西洋美術館</p> <p>国立国際美術館</p>		B	B	べきである。特に企業との連携については、法人全体として積極的な活動を行ってほしい。
<p>6 新国立美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）（仮称）の開設に向けた準備について</p> <p>文化庁が平成18年を目途に開設を予定している新国立美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）（仮称）について、文化庁と連携・協力し、その円滑な開設に向けた体制整備、展示事業等の準備を推進する。</p>	<p>新国立美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）（仮称）の開設に向けた準備について</p> <p>国立新美術館</p>	<p>法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。（A～C）</p>		A	<p>開設準備については、計画通りに進展している。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>六本木という立地の特殊性を踏まえ、国庫の負担にならないための長期的な計画が必要である。また、ショップ等については、斬新な企画を期待する。</p> <p>国立新美術館の開館に伴う、他地区の美術館・ギャラリーの状況調査を行う必要がある。</p>
<p>7. その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的の実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p> <p>東京国立近代美術館</p> <p>東近美フィルムセンター</p> <p>京都国立近代美術館</p> <p>国立西洋美術館</p> <p>国立国際美術館</p>	<p>法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。（A～C）</p>		A	<p>入館者サービスは充実している。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>施設全体が狭隘である。またセルフサービスレストランや喫茶室など青少年層が滞留できるスペースが必要である。改築等に取り組んで欲しい。</p>